

平成19年2月22日

横浜市環境創造局長

橋本 繁 様

横浜市下水道事業包括的管理委託  
総合評価審査委員会

委員長 溝口 周二

委員 池田 陽子

委員 稲員 とよの

委員 田中 和博

委員 宮原 茂

南部汚泥資源化センター包括的管理委託における  
落札候補者の選定結果について

標記について、平成19年2月22日、横浜市下水道事業包括的管理委託総合評価審査委員会におきまして別紙のとおり審査をおこないましたので、その結果を報告いたします。

## 1 本事業の概要

環境創造局南部汚泥資源化センターでは、現在、運転管理業務を仕様発注方式による一般競争入札で実施しているが、より一層の運転管理業務の効率化を図るため、平成19年7月から3年9か月の複数年契約による「包括的管理委託」を導入する。

### (1) 件名

南部汚泥資源化センター包括的管理委託

### (2) 履行場所

南部汚泥資源化センター他7か所

### (3) 履行期間

平成19年7月1日から平成23年3月31日まで(3年9か月)。ただし、平成19年4月1日から平成19年6月30日までを学習期間(人材研修)とする。学習期間(人材研修)の経費は落札者の負担とする。

### (4) 包括的管理委託業務

横浜市南部汚泥資源化センターの運転管理業務

## 2 審査方法等

### (1) 事業者選定の方法

価格だけではなくその他の条件(公共施設等の機能性、公共サービスの水準等)も加味し、総合的に勘案して落札者を決定するため、「総合評価一般競争入札方式」による事業者選定を行った。総合評価一般競争入札とは地方自治法施行令第167条の10の2に規定された契約方式である。

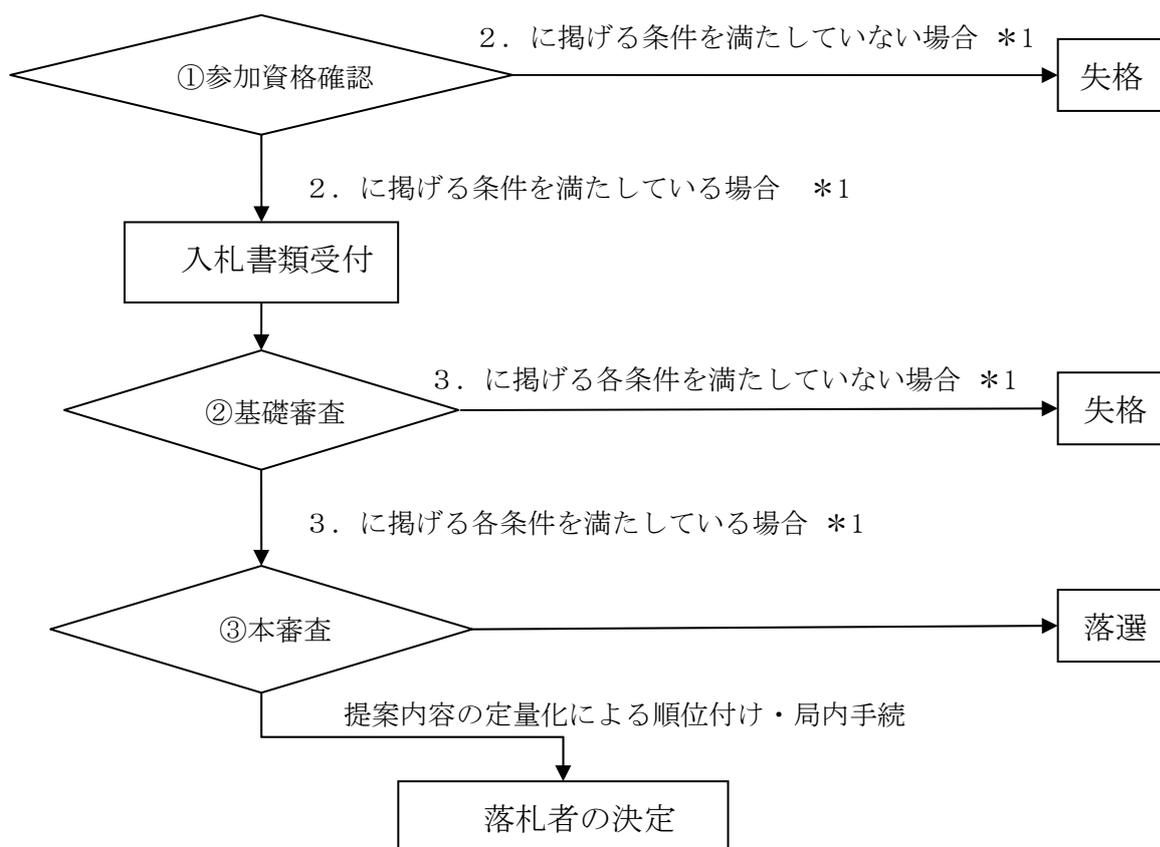
### (2) 審査委員会

民間事業者の選定に当たり、公平性、透明性に配慮した上で、委託料だけでなく民間事業者の技術提案を考慮して適切な事業者の選定を行うため、下記の学識経験者等で構成される「横浜市下水道事業包括的管理委託総合評価審査委員会」を設置した。審査委員会を構成する委員は、次のとおりである。(敬称略)

委員長	溝口 周二	横浜国立大学経営学部会計・情報学科教授
委員	池田 陽子	山田・池田法律事務所 弁護士
委員	稲員 とよの	首都大学東京 都市環境学部准教授
委員	田中 和博	日本大学理工学部土木工学科教授
委員	宮原 茂	(社)全国上下水道コンサルタント協会専務理事

### (3) 事業者選定の流れ

落札者の決定までの選定手順は、次のとおりである。



\*1：南部汚泥資源化センター包括的管理委託評価方法及び落札者決定基準に記載されている条件

### (4) 評価

ア 審査にあたって、応募事業者は匿名で審査を行う。

イ 質に関する評価点は、(ア)に示す評価項目ごとに、(イ)に示す点数化方法によって評価を行い、その合計点として算出する。ここで、1項目でもD評価があった参加者は落選とする。

#### (ア) 評価項目

評価項目	評価の視点	小項目	配点	評価内容
実施方針	汚泥資源化センターの特性や市における本事業の位置づけを十分に理解しているか？ (安定して処理し続けるための考え方)	本事業に対する理解度	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚泥を安定的に処理し、途切れることなく処理し続けること</li> <li>・消化ガス、焼却灰を100%有効利用すること</li> </ul>

業務実施体制	安定・継続的な運転管理を行うのに十分な人員が質・量の面で配置されているか？	人員配置計画、資格者の配置	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置計画の妥当性、人数の妥当性、資格者の配置状況等</li> <li>配置換え時の技術力の維持（引継ぎの考え方）</li> </ul>
	信頼性向上のための体制作りの考え方。また、危機時の会社のバックアップ体制)	責任者の能力、資質	20	責任者の経歴、保有資格、マネジメント能力、本業務に対する理解度等
		研修、教育の方法、体制等	20	従事者の研修、教育に関する取り組み等
		マネジメントシステム	20	PDCA による運転管理方法等の改善の方法、体制等
運転管理計画	運転管理方法は妥当なものか？セルフモニタリングは機能するか？（返流水処理水のモニタリングと水質悪化時の対応方法。各ユニットプロセスでのインジケータの考え方）	水質等の管理方法	30	返流水水質や排ガス等の計測方法、管理体制、性能未達時の対応方法等
		運転計画の作成	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>流入汚泥の変動に対する運転の考え方、異常把握の方法、対応策等</li> <li>市の計画に基づいて、具体的計画が出来ているか</li> </ul>
		薬品等の調達	20	調達の考え方、調達の体制等
維持管理計画	維持管理の体制、実施基準、方法等は、施設の管理を委ねるのに適切か？（同じような故障を繰り返さないための点検・修理対応の考え方）	定期点検に関する提案	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCA サイクルによる突発的故障の最小化が図られている。</li> <li>日常点検の項目、頻度、実施方法等</li> </ul>
		点検結果を踏まえた対応策	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCA サイクルによる体制ができています。</li> <li>修理の必要性の判断基準の妥当性、受託者にて実施可能な修理の範囲等</li> </ul>
		小破修理の実施体制	40	小破修理の委託先選定の考え方、委託管理方法等
リスク管理	施設の特徴を踏まえたリスク項目を把握しているか？それに対する対応体制は適切か？（地震及びユニットプロセスが重大な故障を起こしたときの考え方）	リスク項目と対応策	40	地震・大雨時、送泥ポンプ・配管故障時、電源断時、ユニットプロセス故障時の、対応策の妥当性、対応策の実行可能性等
		緊急時の対応	20	事故、故障、災害発生時等の緊急時の対応体制、迅速さ、会社としてのバックアップ等

学習計画 (人材研修)	引継期間における学習の 計画は妥当か？	学習手順、体 制等	20	施設特性の把握方法、体制の妥当性、 事業実施計画への反映方法等
環境対策	環境に配慮した計画とな っているか？  (汚泥の減量化、省エネ 化、CO2 削減の取り組みの 考え方)	汚泥の減量 化	20	汚泥減量化のための取り組みが優れ ていること。
		省エネ ー	30	・省エネルギーの取り組みが優れて いること  ・電力の前年度比1%減などの取 組みが優れていること
		ISO14001 へ の取り組み	20	ISO 1 4 0 0 1 への対応の考え方等。 特に CO 2 削減の取り組みが優れて いること
その他の提 案	上記以外に、優れた提案 があるか？	-	20	応募者の創意工夫による追加的な提 案事項がある場合
合 計			500	

#### (イ) 加算点の点数化方法

評価に応じた加算点の点数化方法は以下のとおりである。

評価	評価の意味合い	点数化方法
A	当該評価項目において、特に優れている	(配点) × 1.0
B	当該評価項目において、優れている	(配点) × 0.75
C	当該評価項目において、最低限の水準である	(配点) × 0.5
D	当該評価項目において、最低限の水準を満たしていない	(配点) × 0.0

### 3 事業者選定の経緯

本事業における契約交渉者選定までの主な経緯は以下のとおりです。

平成 18 年 9 月 22 日	第 1 回審査委員会
平成 18 年 11 月 6 日	第 2 回審査委員会
平成 18 年 11 月 21 日	入札公告
平成 18 年 11 月 24 日～12 月 14 日	現場説明（4 社）
平成 18 年 12 月 21 日	・ 入札参加資格確認書提出期限 ・ 以下の 2 社から入札参加資格確認書が提出された。 ①クボタ環境サービス（株） ②月島テクノメンテサービス（株）
平成 18 年 12 月 27 日	入札参加資格確認結果の通知
平成 19 年 1 月 9 日	・ 入札（書類受付） ・ 以下の 2 社から入札書類が提出された。 ①クボタ環境サービス（株） ②月島テクノメンテサービス（株）
平成 19 年 1 月 17 日	事業者ヒアリング（事務局）
平成 19 年 1 月 30 日	第 3 回審査委員会
平成 19 年 2 月 22 日	第 4 回審査委員会（落札候補者決定）
平成 19 年 3 月 1 日（予定）	落札者決定（環境創造局第一委託業者選定委員会）
平成 19 年 3 月 15 日（予定）	落札者へ通知。公表
平成 19 年 4 月 1 日（予定）	契約締結

### 4 応募状況

以下の 2 社から応募があった。

- (1) クボタ環境サービス（株）
- (2) 月島テクノメンテサービス（株）

### 5 審査結果

#### (1) 参加資格確認

入札説明書第 6 項(1)から(6)に示す事項について確認した結果、2 社とも入札参加資格を有していることを確認した。

#### (2) 基礎審査結果

落札者決定基準の第 3 項に基づき基礎審査を実施した結果、入札書類の提出のあった 2 社【 $\alpha$ 社(28 億 3,500 万円)、 $\beta$ 社(27 億 9,300 万円)】とも入札価格が予定価格(28 億 3,887 万 4,500 円、消費税及び地方消費税相当額を含む。)を下回っていた。

### (3) 本審査結果

本審査は、加算方式による評価を行う。総合評価点は 1000 点満点とし、価格に関する配点を 500 点、業務提案の質に関する配点を 500 点とした。

総合評価点 (1,000 点満点) = 価格に関する評価点 (500 点満点) + 質に関する評価点 (500 点満点)

#### ア 価格審査結果

両社の価格に関する評価点を算出した。

価格に関する評価点 (500 点満点) = (最低応札価格) / (応札価格) × 500

	入札価格 (円)	価格に関する評価点 (点)
α社	2,835,000,000	493
β社	2,793,000,000	500

#### イ 提案書審査結果

審査委員 5 名による 2 社からの提案内容に関する審査を行った結果は以下のとおりである。

評価項目	配点	α社	β社
実施方針	30	30.0	22.5
業務実施体制	120	90.0	115.0
運転管理計画	70	52.5	70.0
維持管理計画	110	82.5	100.0
リスク管理	60	45.0	60.0
学習計画 (人材研修)	20	15.0	20.0
環境対策	70	57.5	70.0
その他の提案	20	15.0	20.0
合計	500	387.5	477.5

#### ウ 総合評価結果

価格審査、提案書審査を踏まえ、総合評価方式による本審査の結果は以下のとおりである。

審査項目	配点	α社	β社
価格審査	500	493.0	500.0
提案評価	500	387.5	477.5
合計	1,000	880.5	977.5

## エ 審査講評

評価項目	講 評
実施方針	両社とも企業特性を活かし、必要な理解はされている。特にα社は、記述内容が明確である。
業務実施体制	両社とも危機管理に対する研修体制が取られており、責任者としての能力、資質に問題のない人物を予定しているとともに、安定した運転を行なうためのPDCAサイクルが確立されている。特にβ社は、現場の緊急時におけるバックアップの具体的な体制が確保されている。
運転管理計画	両社とも流入変動を考慮した運転・モニタリング計画が提案されている。特にβ社は、汚泥変動に対する考え方が網羅された運転管理計画であり、対応策が具体的に優れている。
維持管理計画	両社とも維持管理を行うためのPDCAサイクルが確立されている。特にβ社は、機器情報をデータベース化した管理システムを提案しており、維持管理業務の効率化が図れる管理ができると考える。
リスク管理	α社は確認事項にとどまる記述が多いのに対し、β社は、各リスク項目に対する具体的な対応が書かれており、速やかな実行が期待できるとともに、保険を付していることは評価できる。
学習計画 (人材研修)	β社のほうが記述内容に具体性があり、研修内容まで踏み込んで検討されている。
環境対策	両社とも環境基準に関するISO14001を良く理解している。特にβ社による汚泥減量化の取組は具体性があるとともに、明確なエネルギー削減目標が明示されている。
その他の提案	両社とも積極的な取り組みが期待できるが、β社の記述内容に具体性があり、情報統合システムは評価できる。

## オ 落札候補者の決定

入札説明書に定める審査を実施し、β社【月島テクノメンテサービス(株)】を落札候補者として決定する。